

令和3年度事業報告

公益財団法人鈴木万平糖尿病財団は、「糖尿病分野に関する研究者の国際的研究交流を助成し、あわせて我が国における同分野の研究者の育成を図ることにより、糖尿病学研究の一層の推進を図り、もって学術の向上発展に寄与する」ことを目的として、定款第4条に定める事業を実施している。

令和3年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日）は、基本財産及び特定資産等の運用益により次に掲げる事業を実施した。

1. 定款第4条に定める公益目的事業

助成事業（公1）	(1) 糖尿病の研究に従事する研究者の海外留学に対する助成 (2) 糖尿病の研究に従事する外国人研究者の招聘に対する助成 (3) 糖尿病に関する会議・シンポジウムに対する助成 (4) 糖尿病に関する調査研究に対する助成
褒賞事業（公2）	糖尿病の予防・治療等における国内の優れた業績に対する褒賞
褒賞事業（公3）	糖尿病に関する国内外の優秀な研究実績に対する褒賞

2. 令和3年度公益目的事業

助成事業及び国内褒賞事業については、令和2年度第2回理事会（令和2年12月14日）及び令和3年度第2回理事会（令和3年12月13日）において承認された内容に基づき実施した。

令和3年度の海外留学助成決定者のうち、1名から辞退届が提出され、2名を助成した。

また、令和2年度助成者1名は、助成途中で他団体の助成に申込み採択されたことから、他団体助成開始後の助成を辞退した。

本年度より新規で募集した若手研究者調査研究助成は、令和3年11月5日開催の選考委員会で10件の助成候補が決定し、令和3年度第2回理事会で承認後、助成した。

延期されていた令和2年度（第13回）糖尿病療養指導鈴木万平賞表彰式並びに記念パーティーは新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、再度中止（延期）した。（令和3年度は該当なし）

国際褒賞事業については、令和3年9月22日開催の国際褒賞審査委員会で令和3年度（第14回）鈴木万平記念糖尿病国際賞の受賞候補者1名が選出され、令和3年度第2回理事会（令和3年12月13日）において承認された。

本賞の表彰式・記念パーティーは、中止（延期）としたが、記念講演会のみ新型コロナウイルスの影響で延期となっていた過去2年分と併せて、3回分を令和4年3月11日にWeb講演会(Live)で開催した。

令和 3 年度公益目的事業の総括

公益目的事業	金 額	内 容
助成事業		
海外留学助成 1.	10,000,000 円	令和 3 年度新規 (@500 万円×2 名)
同 上 2.	15,000,000 円	令和 2 年度継続 (@500 万円×3 名)
外国人研究者招聘助成	0 円	@100 万円×0 件
会議・シンポジウム助成	2,000,000 円	@100 万円×2 件
調査研究助成 1.	7,500,000 円	令和 3 年度新規(@250 万円×3 件)
同 上 2.	2,500,000 円	令和 2 年度継続(@250 万円×1 件)
	3,400,000 円	” (@170 万円×2 件)
	1,600,000 円	” (@160 万円×1 件)
3.	5,000,000 円	令和元年度継続 (@250 万円×2 件)
若手調査研究助成	20,000,000 円	令和 3 年度新規(@200 万円×10 件)
事業推進費	2,107,285 円	募集関連費用
事業運営費	3,635,280 円	
小 計	72,742,565 円	
選考委員会・面接選考	1,878,641 円	開催関連費用
合 計	74,621,206 円	
褒賞事業 (国内褒賞)		
第 14 回糖尿病療養指導鈴木万平賞	0 円	該当者なし (正賞楯・副賞、記念品)
	0 円	表彰式関連費用
事業推進費	1,429,125 円	募集関連費用
事業運営費	1,454,112 円	
小 計	2,883,237 円	
第 15 回国内褒賞審査委員会	911,457 円	開催関連費用
合 計	3,794,694 円	
褒賞事業 (国際褒賞)		
第 14 回鈴木万平記念糖尿病国際賞	18,138,200 円	正賞楯・副賞、記念品
	1,432,140 円	Web 講演会関連費用
事業推進費	1,470,717 円	募集関連費用
事業運営費	727,056 円	
業務委託費	2,648,800 円	
小 計	24,416,913 円	
第 14 回国際褒賞審査委員会	2,404,982 円	開催関係費用
合 計	26,821,895 円	
総 計	105,237,795 円	

各公益目的事業の詳細は、附属明細書のとおりである。

附属明細書

1) 助成事業

海外留学助成 - 1 (令和3年度新規分 2名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p>ひろはま だいごろう 広浜 大五郎</p> <p>帝京大学</p> <p>医学部内科学講座</p> <p>(助成期間2年間)</p>	<p>研究課題： 1 細胞解析を用いた糖尿病性腎臓病の病態解明</p> <p>研究項目： ・1 細胞解析を用いた、糖尿病性腎臓病における低分子 G 蛋白 Rac1－ミネラルコルチコイド受容体経路の細胞特異的活性化意義の解明 ・糖尿病性腎臓病の新たな動物モデルの作製</p> <p>研究機関： University of Pennsylvania</p> <p>研究指導者： Professor Katalin Susztak</p>
<p>おおえ ゆうじ 大江 佑治</p> <p>東北大学</p> <p>東北メディカル・メガバンク機構 地域医療支援部門</p> <p>(助成期間2年間)</p>	<p>研究課題： 腎糖代謝に着目した糖尿病血栓症の治療法開発</p> <p>研究項目： 糖尿病性腎症で血液凝固が亢進し、心血管リスクが上昇する。本研究は、糖尿病薬である SGLT2 阻害剤に凝固組織因子を抑制する多面的作用があるか明らかにし、糖尿病血栓症を予防するための新たな治療基盤を確立する。</p> <p>研究機関： カリフォルニア州立大学サンディエゴ校 腎臓内科</p> <p>研究指導者： Professor Volker Vallon</p>

海外留学助成 - 2 (令和2年度継続分 4名、うち1名中途辞退)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
<p>いとう まりえ 伊藤 麻里江</p> <p>東京大学医学部 附属病院 血液浄化療法部</p> <p>(助成期間2年間)</p>	<p>研究課題： 糖尿病性腎臓病の足細胞傷害の病態生理の解明</p> <p>研究項目： 糖尿病性腎臓病発症において足細胞の脂質蓄積によるミトコンドリア障害が重要であるが、それ単独では細胞傷害は起きない。本研究では他に嫌氣的解糖障害が重要であるとの仮説をもとに発症機序を解明するものである。</p> <p>研究機関： University of Miami</p> <p>研究指導者： Professor Alessia Fornoni</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・助成期間
<p>いわさき ひろたか 岩崎 広高 滋賀医科大学 薬理学講座</p> <p>【中途助成辞退】</p>	<p>研究課題： 糖尿病、加齢によるサルコペニアに対する骨格筋を標的とした治療薬の開発</p> <p>研究項目： ①ヒト血清および骨格筋サンプルの解析による新規マイオカインおよび運動関連 miRNA の同定 ②新規マイオカインおよび運動関連 miRNA のマウス生体内における役割の解明</p> <p>研究機関： University of California, Los Angeles</p> <p>研究指導者： Professor Andrea Hevener</p>
<p>ながの ひでかず 永野 秀和 千葉大学大学院 医学研究院 分子病態解析学</p> <p>(助成期間 2 年間)</p>	<p>研究課題： 肥満・糖尿病ーがん関連の解明を目指したミトコンドリア高次機能解析</p> <p>研究項目： 本研究は、肥満・糖尿病とその合併症であるがんとの共通の分子シグナルとして、細胞内外の代謝制御と細胞増殖・浸潤・腫瘍造成を直接的に結びつけるメカニズムをミトコンドリア超複合体の新たな分子基盤から捉えることを目的とする。</p> <p>研究機関： Columbia University</p> <p>研究指導者： Professor Carol Prives</p>
<p>すずき るか 鈴木 路可 順天堂大学大学院 代謝内分泌内科</p> <p>(助成期間 2 年間)</p>	<p>研究課題： オートファジー不全と膵β細胞不全をつなぐ新規遺伝子の同定とその機能解析</p> <p>研究項目： 膵β細胞におけるオートファジー、小胞体(ER)ストレス</p> <p>研究機関： University of California, San Francisco</p> <p>研究指揮官： Professor Feroz Papa</p>

外国人研究者招聘助成（令和 3 年度 0 件）

なし

会議・シンポジウム助成（令和3年度 2件）

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加人数	主催機関
第37回日本糖尿病・妊娠学会学術集会 令和3年11月27～28日 ナレッジキャピタル コングレゴーションセンター （大阪市） クラファンフロント大阪内 【Webハイブリッドにて開催】	大阪府立病院機構 大阪母子医療センター母性内科 主任部長 和栗 雅子	504名	一般社団法人 日本糖尿病・妊娠学会
第20回日本先進糖尿病治療研究会 令和3年11月6～7日 出島メッセ長崎（長崎市） 【Webハイブリッドにて開催】	久留米大学医学部内科学講座 内分泌代謝内科部門 筑後市立病院内分泌・代謝内科 准教授 中山ひとみ	287名	久留米大学医学部内科学講座 内分泌・代謝内科部門

調査研究助成 - 1（令和3年度新規分 3件）

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
国立成育医療研究センター 分子内分泌研究部 部長 深見 真紀	研究課題： 小児期発症糖尿病患者の遺伝子診断システム確立と診療バイオマーカー開発 研究期間： 自 令和3年4月 至 令和6年3月 （3年間） 助成期間： 自 令和3年4月 至 令和6年3月 （3年間） 助成金額： <u>令和3年度 250万円</u> 令和4年度 250万円 令和5年度 250万円
神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学 教授 小川 渉	研究課題： メトホルミンによる腸管へのグルコース排泄作用の臨床的意義の解明 研究期間： 自 平成3年1月 至 令和5年12月 （3年間） 助成期間： 自 令和3年4月 至 令和6年3月 （3年間） 助成金額： <u>令和3年度 250万円</u> 令和4年度 250万円 令和5年度 250万円

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
東京女子医科大学 附属成人医学センター/ 糖尿病センター/ 統合医科学研究所/ 遺伝子医療センター 成人医学センター 所長・教授 いわさき なおこ 岩崎 直子	研究課題： 日本人若年発症糖尿病原因遺伝子の網羅的解析と分子レベルの発症機構の解明 研究期間： 自 令和3年4月 至 令和5年3月 (2年間) 助成期間： 自 令和3年4月 至 令和5年3月 (2年間) 助成金額： <u>令和3年度250万円</u> 令和4年度250万円

調査研究助成 (令和2年度継続分 4件)

研究責任者	研究課題・助成期間・助成金額
山口大学 病態制御 内科学講座 准教授 おおた やすはる 太田 康晴	研究課題： ヒトにおける糖代謝の概日リズムと時計遺伝子との関連性の検討 助成期間： 自 令和2年4月 至 令和5年3月 (3年間) 助成金額： 1年目：170万円 <u>2年目：170万円</u> 3年目：160万円
千葉大学 内分泌 代謝・血液・老年 内科学 教授 よこて こうたろう 横手 幸太郎	研究課題： 肥満症に対する効果的な治療方法と合併する健康障害の改善に役立つ減量数値目標を見出すための介入研究 助成期間： 自 令和2年4月 至 令和5年3月 (3年間) 助成金額： 1年目：170万円 <u>2年目：160万円</u> 3年目：170万円
大阪大学 内分泌 代謝内科学 教授 しもむら いいちろう 下村 伊一郎	研究課題： 2型糖尿病患者における冠動脈・膝・心筋・脾への異所性脂肪蓄積の実態調査と臨床的考察 - 多施設共同研究 - 助成期間： 自 令和2年4月 至 令和5年3月 (3年間) 助成金額： 1年目：160万円 <u>2年目：170万円</u> 3年目：170万円
京都大学 糖尿病 内分泌・栄養内科学 教授 いながき のぶや 稲垣 暢也	研究課題： 非侵襲的膵β細胞イメージング技術による1型及びインスリン依存状態糖尿病患者の病態調査 ～量的視点から～ 助成期間： 自 令和2年4月 至 令和5年3月 (3年間) 助成金額： 1年目：250万円 <u>2年目：250万円</u> 3年目：250万円

調査研究助成 - 3 (令和元年度継続分 2件)

研究責任者	研究課題・助成期間・助成金額
順天堂大学 代謝内 分泌内科学 教授 わただ ひろたか 綿田 裕孝	研究課題： 血糖変動と心血管イベント発症の関連性を検討する前向き観察研究 助成期間： 自 平成31年4月 至 令和4年3月 (3年間) 助成金額： 1年目：250万円 2年目：250万円 3年目：250万円
東京大学 糖尿病- 生活習慣病予防講 座 特任教授 かどわき たかし 門脇 孝	研究課題： 2型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に及ぼす長期的な影響の検討 助成期間： 自 平成31年4月 至 令和4年3月 (3年間) 助成金額： 1年目：250万円 2年目：250万円 3年目：250万円

若手研究者調査研究助成 (令和3年度新規分 10件)

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
愛知医科大学 医学部内科学講座 糖尿病内科 ひめの たつひと 姫野 龍仁	研究課題： 糖尿病性多発神経障害における insulin-Notch 連関の異常と再生機構の破綻 研究期間： 自 令和4年1月 至 令和6年3月 (2.3年間)
医薬基盤・健康・栄 養研究所 難治性疾 患研究開発・支援 センター きむら ともりの 木村 友則	研究課題： 腎生検施行患者における D-アミノ酸による糖尿病性腎症の同定 研究期間： 自 令和4年1月 至 令和5年3月 (1年間)
熊本大学 生命科学研究部・ 代謝内科学講座 さかぐち まさし 阪口 雅司	研究課題： 成人の褐色脂肪組織再生を促す生理活性因子の研究 研究期間： 自 令和3年10月 至 令和5年3月 (1.5年間)
日本大学医学部 内科学系腎臓高血圧 内分泌内科学分野 こばやし ひろき 小林 洋輝	研究課題： 糖尿病性腎症の進展における新規 BMP 拮抗分子の役割についての検討 研究期間： 自 令和4年4月 至 令和6年3月 (2年間)
大阪大学 医学系研 究科 内分泌・代謝 内科学 ふくだ しろう 福田 士郎	研究課題：アディポネクチン結合タンパク質・T-カドヘリンの血中可溶性フォームの生理病態学的重要性 研究期間： 自 令和3年10月 至 令和5年9月 (2年間)

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
日本医科大学 医学研究科分子遺伝 医学分野 酒井 真志人	研究課題： インスリン抵抗性が肝臓マクロファージの機能に及ぼす影響とそのメカニズム 研究期間： 自 令和4年4月 至 令和6年3月 (2年間)
大阪大学 医学系研 究科 内分泌・代謝 内科学 糖尿病病態 医療学 佐々木周伍	研究課題： 膵β細胞分化における脂肪酸代謝の重要性解明と糖尿病再生医療への応用 研究期間： 自 令和4年2月 至 令和6年1月 (2年間)
宮崎大学医学部医学 科・生体制御医学研 究講座 張 維東	研究課題： ニューロメジンUとその関連ペプチドによる膵β細胞機能調節機序の解析 研究期間： 自 令和3年10月 至 令和5年9月 (2年間)
東京大学医学部附属 病院 糖尿病・代謝 内科 いがらし まさき 五十嵐 正樹	研究課題： グルコースによる幹細胞制御機構解明とその糖尿病病態下での応用 研究期間： 自 令和4年1月 至 令和5年3月 (1.3年間)
東京大学医学部 附属病院 腎臓・ 内分泌内科 たなか しんじ 田中 真司	研究課題： 神経免疫連関に基づいた糖尿病性腎臓病新規治療法の開発 研究期間： 自 令和4年4月 至 令和7年9月 (3.5年間)

2) 褒賞事業

令和3年度（第14回）糖尿病療養指導鈴木万平賞

【個人/団体】 該当なし

令和3年度（第14回）鈴木万平記念糖尿病国際賞

受賞者	Gerald I. Shulman, MD, PhD, MACP, MACE, FRCP George R. Cowgill Professor of Physiological Chemistry Professor of Medicine and Cellular & Molecular Physiology Co-Director Yale Diabetes Research Center Yale School of Medicine
推薦者	Daniel Drucker, MD Mt. Sinai Hospital, University of Toronto
受賞理由	<p>The Section Committee highly recognized his pioneering and extensive contribution over years leading to several paradigm shifts in our understanding of physiologic regulation of liver and muscle carbohydrate and fat metabolism in humans and its dysregulation in type 2 diabetes</p> <p>同博士は、いくつものパラダイムシフトにより、ヒトにおける肝臓・筋肉の糖質、脂質代謝の生理学的調節及び2型糖尿病におけるそれらの調節異常に対する人々の理解を先導してきました。審査委員会はこれらの功績を、長年に亘り、先駆的かつ広範囲に貢献したと高く評価しました。</p>

3. 令和4年度公益目的事業

1) 助成事業（公1）

令和3年度第1回理事会（令和3年5月31日）で募集要領の承認を得て、8月1日から9月30日まで4つの助成事業の募集を行った。

申請資料に基づき令和3年11月5日の選考委員会で、今回初めて公募した令和3年度若手研究者調査研究助成候補10件が選出され、令和4年度助成候補（海外留学助成6名、会議・シンポジウム助成3件、調査研究助成5件）が選出された。

また、同委員会で中間報告に基づき、調査研究助成（令和3年度3件、令和2年度4件）の助成継続が了承された。

一方、外国人研究者招聘助成への応募はなかった。

選考にあたり、利益相反に接触すると判断されたため、海外留学助成に関して1名、令和2年度の調査研究継続の可否に関して2名、若手研究者調査研究助成に関して1名の選考委員は当該助成の事前評価及び当日の審議には加わらなかった。

海外留学助成候補者6名については、令和3年11月24日の面接選考会にて語学力を審査し、6名全員を適格と判定した。

これら助成候補は、令和3年度第2回理事会（令和3年12月13日）で審議され、選考委員会・面接選考会での選考結果のとおり承認された。

なお、海外留学助成決定者には助成決定証書の授与及び提出書類等の説明のために、令和4年1月14日にオリエンテーションを実施した。

2) 褒賞事業（公2）：第15回糖尿病療養指導鈴木万平賞

令和3年度第1回理事会（令和3年5月31日）で募集要領の承認を得て、7月14日から9月13日まで募集を行った。

推薦資料に基づき令和3年10月6日の国内褒賞審査委員会で審査を行い、受賞候補2件（個人1名、団体1件）を選出した。

審査結果は、令和3年度第2回理事会（令和3年12月13日）で審議され、審査委員会の審査結果のとおり承認された。

3) 褒賞事業（公3）：第15回鈴木万平記念糖尿病国際賞

令和3年度第1回理事会（令和3年5月31日）で募集要領の承認を得た。

附属明細書

1) 助成事業(公1)

海外留学助成(令和4年度 6名)

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p>いわさき かなこ 岩崎 可南子</p> <p>京都大学 医学研究科</p> <p>糖尿病・内分泌・ 栄養内科学</p>	<p>研究課題： 膵β細胞の老化制御因子の探索と糖尿病治療への応用</p> <p>研究項目： 膵β細胞の老化が2型糖尿病におけるインスリン分泌低下に重要であることが、受入先研究室により近年初めて明らかになった。一方で膵β細胞老化の分子基盤は未解明であり、その解明は膵β細胞老化抑制という全く新しい糖尿病治療標的の同定につながると期待される。このような背景から候補者は、細胞レベルでの膵β細胞老化シグナル経路及び老化抑制・促進因子の同定、及びそれらの病態的重要性の個体レベルでの検討を行うべく、本研究を計画した。</p> <p>研究機関： ジョスリン糖尿病センター</p> <p>研究指導者： Cristina Aguayo-Mazzucato</p> <p>留学期間： 自 令和4年4月 至 令和6年3月(2年間)</p>
<p>ひむろ みわ 氷室 美和</p> <p>順天堂大学 医学研究科</p> <p>代謝内分泌内科学</p>	<p>研究課題： 膵α細胞・β細胞制御因子の解明</p> <p>研究項目： インスリン分泌、グルカゴン分泌、CRISPR-Cas9</p> <p>研究機関： University of California, San Francisco</p> <p>研究指導者： Gregory M. Ku</p> <p>留学期間： 自 令和4年7月 至 令和7年3月(2.8年間)</p>
<p>あらーなわす Allah Nawaz</p> <p>富山大学 医学薬学研究部 分子医科薬理学</p>	<p>研究課題： Elucidation of insulin signaling defects in muscle of type2 diabetes (T2D) using T2D patients' iPS-derived myoblasts.</p> <p>研究項目： 1. To define the molecular signature of insulin resistance. I will perform a global phosphoproteomic analysis of Type 2 Diabetes (T2D)induced pluripotent stem (iPS)cells-derived myoblast(iMyos) 2. To determine if iPS cells-derived from T2D patients exhibit unique different or exaggerated responses to external signaling that produse insulin resistance, such as exposure to cytokines, TNFa, and high levels of free fatty acids(FFA) 3. To assess the activity of the different novel PKCs implicated in insulin resistance in T2D iPS-derived iMyos and also determine their role in the altered phosphorylation through either knockdown and/or inhibitor studies.</p> <p>研究機関： Joslin Diabetes Center, Harvard Medical School</p> <p>研究指導者： C. Ronald Kahn</p> <p>留学期間： 自 令和4年4月 至 令和6年3月(2年間)</p>

氏名・所属	研究課題・研究項目・研究機関・研究指導者・留学期間
<p data-bbox="135 275 288 320">おのの い しょう 遅野井 祥</p> <p data-bbox="151 405 288 483">弘前大学 医学研究科</p> <p data-bbox="151 546 288 624">内分泌代謝 内科学講座</p>	<p data-bbox="368 264 1469 342">研究課題： 機能的腹側膵オルガノイドの創出に基づく発生生物学研究と移植への展開</p> <p data-bbox="368 360 1469 528">研究項目： ヒト膵発生を再現した手法により内分泌・外分泌・膵管を含むオルガノイドを作成する。発生、分化、糖代謝における役割が十分に解明されていない腹側膵に着目し、解析を行う。マウスへの膵オルガノイドの移植による糖尿病治療の可能性を検討する。</p> <p data-bbox="368 573 963 607">研究機関： Cincinnati Children's Hospital</p> <p data-bbox="368 647 783 680">研究指導者： Takanori Takebe</p> <p data-bbox="368 698 1219 732">留学期間： 自 令和4年8月 至 令和7年3月 (2.7年間)</p>
<p data-bbox="135 779 304 824">いざわ しゅんたろう 伊澤 俊太郎</p> <p data-bbox="151 898 288 931">北海道大学</p> <p data-bbox="135 1043 304 1122">獣医学研究院 生化学教室</p>	<p data-bbox="368 779 1326 813">研究課題： 糖代謝異常と睡眠異常を関連付ける視床下部神経機能の解明</p> <p data-bbox="368 831 1469 999">研究項目： 糖代謝と睡眠調節の両方を調節すると想定される視床下部神経をカルシウムイメージングと遺伝子改変マウスにより同定・標識し、オプトジェネティクス（光遺伝学）を用いた神経活動操作によって肥満と睡眠異常の負のサイクルの改善機能を明らかにする。</p> <p data-bbox="368 1021 1174 1055">研究機関： Max Planck Institute for Metabolism Research</p> <p data-bbox="368 1072 743 1106">研究指導者： Jens Bruning</p> <p data-bbox="368 1124 1198 1158">留学期間： 自 令和4年4月 至 令和6年3月 (2年間)</p>
<p data-bbox="135 1205 272 1249">かとう だいすけ 加藤 大祐</p> <p data-bbox="124 1279 320 1357">三重大学医学部 附属病院</p> <p data-bbox="177 1424 264 1458">病理部</p>	<p data-bbox="368 1205 1238 1238">研究課題： 加齢に伴うベージュ脂肪細胞の活性化抑制機構の解明</p> <p data-bbox="368 1256 1469 1335">研究項目： 高齢者の肥満・糖尿病を引き起こすベージュ脂肪細胞の機能低下に関与する原因遺伝子の同定および機能解析</p> <p data-bbox="368 1402 1390 1435">研究機関： Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School</p> <p data-bbox="368 1453 791 1487">研究指導者： Shingo Kajimura</p> <p data-bbox="368 1505 1206 1538">留学期間： 自 令和4年4月 至 令和6年3月 (2年間)</p>

外国人研究者招聘助成（令和4年度 0件）

応募なし

会議・シンポジウム助成（令和4年度 3件）

会合名・開催日・会場	主催責任者	参加予定人数	主催機関
第36回日本糖尿病・肥満動物学会年次 学術集会 令和5年2月17～18日 一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）	横浜市立大学医学研究科 分子内分泌・糖尿病内科学教室 教授 寺内 康夫	300名	日本糖尿病・肥満動物 学会
第33回日本糖尿病性腎症研究会 令和4年12月3～4日 金沢市文化ホール（金沢市） 【Webハイブリッド形式】	金沢大学 腎病態統御学・腎臓内科学 教授 和田 隆志	450名	第33回日本糖尿病性腎症 研究会
第21回日本先進糖尿病治療・1型糖尿 病研究会 令和4年10月8～9日 神戸商工会議所会館（神戸市） 【Webハイブリッド形式】	D Medical Clinic Osaka 院長 広瀬 正和	230名	日本先進糖尿病治療・ 1型糖尿病研究会

調査研究助成（令和4年度 5件）

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
自治医科大学 小児科 教授 嶋田 明 しまだ あきら	研究課題： 小児がん経験者がメタボリック症候群を早期に発症する要因の解明 研究期間： 自 令和4年1月 至 令和6年12月 （3年間） 助成期間： 自 令和4年4月 至 令和7年3月 （3年間） 助成金額： <u>令和4年度200万円</u> 令和5年度200万円 令和6年度200万円
滋賀医大内科学 講座 教授 前川 聡 まえがわ ひろし 横山内科 理事長 横山 宏樹 よこやま ひろき	全国多施設大規模共同研究による日本人糖尿病の生命・心血管疾患・ 腎機能の予後と時代効果 研究課題： 腎機能の予後と時代効果 ー第一次コホート研究と第二次コホート研究の比較を踏まえてー 研究期間： 自 令和4年1月 至 令和7年12月 （4年間） 助成期間： 自 令和4年4月 至 令和7年3月 （3年間） 助成金額： <u>令和4年度250万円</u> 令和5年度250万円 令和6年度250万円
一般社団法人糖尿 病データマネジ メント研究会 (JDDM)	

研究責任者	研究課題・研究期間・助成期間・助成金額
大阪大学医学系 研究科 内分泌・ 代謝内科学 講師 <small>かたかみ なおと</small> 片上 直人	研究課題： メタボロミクスによる糖尿病血管障害のバイオマーカー探索・リスク予測モデルの作成と病態解明 研究期間： 自 令和3年12月 至 令和8年12月 (5.1年間) 助成期間： 自 令和4年4月 至 令和7年3月 (3年間) 助成金額： <u>令和4年度 250万円</u> 令和5年度 250万円 令和6年度 199万円
東京大学 医学系研究科 糖尿病・代謝内科 客員研究員 <small>かどわき たかし</small> 門脇 孝	研究課題： 2型糖尿病に対する厳格な多因子介入が血管合併症と生命予後に及ぼすより長期的な影響の検討 研究期間： 自 令和3年7月 至 令和8年6月 (5年間) 助成期間： 自 令和4年4月 至 令和7年3月 (3年間) 助成金額： <u>令和4年度 250万円</u> 令和5年度 250万円 令和6年度 250万円
熊本大学生命科学 研究部代謝内科学/ 健康長寿代謝制御 研究センター 教授/センター長 <small>あらかき えいいち</small> 荒木 栄一	研究課題： 常圧低酸素運動介入によるサルコペニア予防や、インスリン抵抗性改善機序の解明 研究期間： 自 令和4年4月 至 令和7年3月 (3年間) 助成期間： 自 令和4年4月 至 令和7年3月 (3年間) 助成金額： <u>令和4年度 250万円</u> 令和5年度 250万円 令和6年度 250万円

2) 褒賞事業(公2)

令和4年度(第15回)糖尿病療養指導鈴木万平賞

【個人】	
佐藤 利昭 氏 (隠岐の島町国民健康保険五箇診療所 所長)	
推薦者	谷澤 幸生 氏 (日本糖尿病学会 常務理事 中国四国支部長)
選考理由	<p>島根県における糖尿病医療地域格差克服のためメディカルスタッフ教育に取組み、また島根県全域に亘って、糖尿病診療のネットワーク造りに努力して、地域における糖尿病療養レベル向上へ多大に貢献した。さらには離島の診療にも活動の場を広げて地域包括ケアを推進している。</p> <p>これらの活動には一貫性があり、人材や医療資源が必ずしも十分ではない日本全国の地方・僻地における糖尿病療養指導のモデルケースとして波及効果も大きく、これらの業績は本賞に値する。</p>
【団体】	
特定非営利活動法人 国際糖尿病教育学習研究所 (代表者 芳野 原 氏)	
推薦者	小川 渉 (日本糖尿病学会 理事)
選考理由	<p>NPO 法人として 25 年の長きに亘り兵庫県を中心に医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士等を対象とした各種研修会を開催し、糖尿病の教育啓蒙活動を行っている。</p> <p>2009 年より東京地区にも活動を広げ、年 4 回程度研修会を開催している。コロナ禍の 2020 年に入ってから、ハイブリッド方式で研修会を再開した。設立以来、延べ 1 万人を超える参加者があり、糖尿病療養指導士を目指す指導者に長年に亘り研修環境を提供し、その質向上に貢献した。</p> <p>これらの活動は長きに亘り、一貫性があり、その波及効果も大きく、これらの業績は本賞に値する。</p>